

2015 アフリカプロジェクトツアー無事帰国



Olgilai プライマリースクールの生徒たちと

2015AFRICA 現地訪問ツアーを終えて 7月3日(金)~7月12日(日)

WRJ代表理事 加藤 典宇暉

タンザニアでは従来から支援している北部観光都市アルーシャ近郊の農村地域とアルーシャから西方へ 200km 程離れた農村地域ブルを訪問しました。アルーシャはマウントメルレーの山麓の町、アルーシャ州の州都、ブルはアルーシャ州に隣接するマニヤラ州ブル地域の中心の町になります。

WRT (ワールドランナーズ・タンザニア) 代表、スーレーが熱心に訪問先をアレンジしてくれたこともあり、私たちの来訪を知り遠方より WRJ への要請書を直接届けに来た学校関係者もありました。今回 14 件に上る要請が寄せられたのは、WRJ の 20 年を超える継続した活動が、それだけ現地の人々に認知されている証として胸を張って良いことだと思います。そして、現地の期待度の高さに WRJ はどのように応えられるのか不安もよぎった一瞬でした。

昨年度からスタートした奨学金制度については、ムリンガセカンダリースクールで少女たちに会い直接、奨学金交付認定書を手渡すことができました。この事業については 2024 年まで継続してゆきます。

継続支援し、追加支援も行い完成を心待ちにしてきた、ブル地域のシンギランドセカンダリースクールの 2 教室の建設については、完成を確認しオープニングセレモニーに出席してきました。次のステップは開校ということになりますがスーレーを通し現地の状況を把握しながらどんなサポートが出来るか調整してゆきます。

今回、現地からの要請のほとんどは教育にかかわるもので、教室の建設、教室のリフォーム、理科実験室の建設、コンピューター教室の建設、寄宿舎の建設、学校水源の確保、PC の導入支援等高額の支援要請が多く、WRJ としてはシンギランドセカンダリースクールのプロジェクト完了までは、少額のプロジェクトへの支援を中心に対応しようと考えています。

シンギランド開校まで、まだひとしきり時間とお金 (理科実験室建設用) が必要となりそうです。

アフリカプロジェクトへのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

2年前に初めてタンザニア、ケニアを訪問した時は、見るもの、聞くことの多くが刺激的でしたが、街中では常に周りを気にする等それなりに緊張していました。今回も安全面や体調面で注意はしていましたが、街の様子に少し慣れたこと、また地方に行き農村風景やどこまでも続く大地を見ていると、日本の都会の生活で時々感じるストレスを全く感じず、前回よりリラックスして過ごせました。

訪問した学校やプロジェクトは14件と前回の約2倍となりましたが、これはアルーシャやブルで継続的に支援活動をしているWRJに対し、訪問の要望や支援の要請が多く寄せられたためです。

訪問先の一つのムリンガ中等学校では、WRJが今年から開始した「女子中学生への奨学金」を受ける2人の生徒と会いました。親を亡くす等で苦勞の多い生活をしている2人は私達を前に緊張したのか、それともその厳しい境遇のためか、あまり笑顔を見せませんでした。将来、無事に中学、高校を卒業し希望を叶えてほしいと思いました。

支援しているプロジェクトの中には計画通り進まず、当初の予算を上回る費用がかかっているものもあります。「支援に頼らず、現地の人がもっと責任をもちプロジェクトを進めてほしい」と思うこともあります。現地の人達の収入は総じて低く、その収入も干ばつ等の気象条件で左右されること、また水の確保にも苦勞している生活等を考えると、こちらの考え方を考える必要があるかな、とも感じました。

WR タンザニアのスレー代表は、「WRJは、現地の人々に役立つ良い活動をしている」と言っています。また今回の訪問でも、様々な場所で現地の人達の歌と踊りの歓迎を受けました。このように私達が歓迎されるのも、WRJの活動に賛同し関わっていただいている方々のサポートがあるからだと思います。御礼申し上げます。そして、そのサポートが現地で実を結ぶよう、今後も活動していきたいと思っています。



ムリンガ中等学校で2人の奨学生と一緒にの矢崎さん(左)と歓迎のサモサとチャパティーを勧められる金子さん(右)



2015年アフリカツアー

WRJ 理事(事務局長) 矢崎 芽生

2年ぶりにタンザニア アルーシャを訪問しました。メルー山は相変わらず富士山のように美しい佇まいで、どこか懐かしい雰囲気を持っていました。

2年前のアフリカツアーは、WRT代表のスレーさんとの初対面を果たし、訪問先のすべてが初体験で、多くの緊張を感じ、刺激を受けたことを覚えています。今回はタンザニアを経験しているということで、メンバーからの質問が来ることもあり、2年前の記憶をたどりつつ、その時との変化も感じる事が出来ました。

WRJが支援する奨学生の2人の女の子とも対面を果たすことが出来ました。緊張していたのなかなか笑顔が見られなかったのが残念ですが、たくさんの同級生とともに多くを学び、得たものを何かしらの形でタンザニアに貢献してくれることを期待したいと思います。シンギランドの学校は、なかなか進捗が思わしくなかった2つの教室の建設が何とか完成し、こちらもほっとしました。しかし、開校するための条件となる、すべての建物が完成するためには、まだ時間がかかるようで、思うようには進まない困難さをさらに感じる事となりました。

日本に比べれば、確かに足りないものがあるタンザニア、一方でよく言われることではありますが、日本が失ってしまった何かが、タンザニアにはまだ残っているようにも思います。見方によっては豊かさも感じます。前回よりもたくさんの支援要請を受け、これからどうしていくかを検討していくこととなりますが、多くの方が力づけられる支援の方向を模索していきたいと思っています。



私が理事になった当初は「走る」ことだけで協力しようと思っていましたが、2年前のケニア、タンザニアの視察ツアーの報告を聞いた時に私自身も行ってみたいという気持ちになりました。今回参加を決めたのは、一緒に行くメンバーが途上国の情勢に詳しい人達なので、実際の支援先に行って見たり聞いたりするだけではないたくさんの方の事を教えてもらえると思ったからです。

このプロジェクトに参加する前は、アフリカでは女子への教育には消極的であるという話を聞いておりましたが、現地へ行ってみるとそれほど女性への差別はみられませんでした。14ヶ所の小中学校等を訪問しましたが、男女分け隔てなく教育が為されておりました。ところが、子供の数が多すぎて校舎が足りない小学校があるかと思えば、水やガスも使用できる理科実験室を所有する中学校があるなど、現状には格差があるように思えました。各訪問先からいろいろな要望を出されたので、選択するのに難航しそうです。

要望には教育に関することだけではなく水に関することも含まれていました。私自身が水処理の仕事をしているためそちらにも視点を置いていましたが、まだタンザニアでは「処理をする」という状況ではなく、そもそも生活用水としての水が不足していました。方法としては地下水をくみ上げるか雨水を利用するかという提案がされておりましたが、いずれも材料的及び動力的な不足が課題でした。それらの要望に私たちがどの程度支援するかはこれからですが、他にも理科実験室を造りたいという要望もあり、子供たちがもっと理数系に興味を持ってもらえるといいなとも思いました。

帰国前夜の食事会の挨拶の時に、ずっと同行してくれた WRT のスーレーさんが涙ぐんでいたのが忘れられません。これからは「走る」ことだけではなく、私もこのプロジェクトにしっかり参加していこうと思います。一緒に行ったメンバーの皆さん、ありがとうございました。



シンギランド セカンダリースクールの入学予定の生徒たちと



アルーシャからブルに行く途中、4人乗りのバイク

初めてのアフリカ

WRJ 運営委員 大淵 秀仁

初めて踏むアフリカの大地。過去に訪れたアジア諸国とは異なる乾いた無臭の空気。キリマンジャロを望み、様々な作物の畑が延々と続く長閑な農業国。一方で、都市部は磨かれた日本車が行き交い、急激な経済発展を伺わせる。想像を超える発展がそこにはあり「この国で支援なのか。」と疑問さえ感じました。

しかし中心部を離れて脇道に入ると尋常じゃない凹凸の未舗装路。ライフラインは電線程度なのか一気に様変わりした町並みに、多少は納得するも、内心晴れないままに支援地を訪問。実は、この国では地域が学校建設を担うので、玉葱等の高付加な作物を収穫する地域の学校は立派ですが、貧しい地域では資金は慢性的に不足し、地域収入が弾力的に影響するので不作になれば資金はショートするとのこと。ほんの一例ですが、現地に行かないと知り得ない問題の根深さを改めて知りました。

今まで私は、まだ見ぬ国の課題を日本の皆さんに伝えることの難しさに、戸惑いや葛藤がありました。今回の視察でそれが晴れたわけではなく、支援先の選択や支援の在り方等々、多くの宿題を抱えての帰国となりました。まだまだ私の旅は続きそうです。

2年後の再訪を誓い、WRJでの活動を更に頑張りたいと思います。

今回のツアーを一言でいうと・・・「LIVE 感」。

普段から、仕事上、開発途上国にはよく行きます。ただ、その場合、現地に行ってもホテルと相手先の事務所を往復しながら、話し合いを行うだけ。それ以外には、たまに現場視察があるものの、ほとんど現場を感じることはありません。なんかもったいないな・・・と思うこともしばしばでしたが、今回は少し違いました。

現地では、WRT 代表スーレー氏がコーディネーターとして訪問先をアレンジし、同行してくれたので、そこは普段の出張と似た感じでした。しかし、支援先や要請元の小中学校の訪問となると、そこは全く別もの。訪れるすべての学校が、WRJ 支援のエンドユーザー（又はその候補）。すなわち、まさにみなさんの支援により、校舎が建築されるなど、状況が改善されている（される可能性がある）現場でした。

そこは、ガラスの無い窓、坂になっていて走りにくい校庭に 5 人で一冊という使い古された教科書のある学校・・・、ともすると落ち込みそうですが、ふと視線を上げると、そこには広大な自然に囲まれた素敵な学校と屈託のない子供たちの笑顔がありました。そう、この共存状態がリアルなのです。決して生活は楽ではない、でも、その状況でもしっかりと力強く、笑顔で暮らしている人がたくさんいるのです。このバランスしている感じが、自分にとってはとても LIVE な体験でした。なかなか、文字や写真だけではお伝えしきれないところかもしれませんが、この LIVE 感を支援者の方々に少しでも理解いただけるよう、工夫したいと思います。

ぜひみなさんも機会があれば、タンザニアにいらしてください。その時は、是非迫力あるサファリと共に、少し郊外の街にも足を運んでみてください。すばらしい景色と美味しいご飯と共に、そこに息づく人々の暮らしを五感で体験できると思います。



マサイの村レンギジャベで共に跳ねる田口さん



シンギランドセカンダリースクール新教室前で

初めてのアフリカプロジェクトに参加して

日下部 博子

今回 WRJ のタンザニアツアーは、私にとって初めてのアフリカ大陸への旅になりました。人類発祥の地と言われるタンザニアですが、山の尾根を走るうねうねとした道から、広い大地をまっすぐ突っ切る道、目の前に広がる広大な景色など、本当にダイナミックで、圧倒されました。その中で、自然が多く残されたブルの田舎で生活する人々や、活気溢れるアルーシャの町で生活する人々の生活を垣間見ることが出来ました。

プロジェクト訪問先では、様々な支援要請がありました。水に対する要求はブルの村でも、アルーシャの町でも強かったように思いました。アルーシャの町では学生服を着た生徒がポリタンクを手に水を汲みに行くところを何度か見かけましたが、本来であれば勉強している時間に水を汲みに行かなければならないのは大変なことです。どこの訪問地でも多くの住民が集まって来られ、これまでの WRJ の支援に対する信頼感を感じるとともに今後の支援への期待の大きさも感じました。支援先であるブルのある村を訪れた時には、現地の方が「支援だけでなく長年パートナーでいてくれたことに感謝したい」と話していました。WRJ が長年に亘って現地の方達と築いてきた信頼関係はととても貴重だと思えました。

今回のアフリカ訪問で、現地の人達の声や生活を直接聞いたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。世界にはまだまだ衣食住が足りていない人たちがいることを、日々の生活の中でも忘れずにいたいと思います。また、ツアーで見た事、感じたことを自分の周りの人たちに少しでも伝えられればと思います。

ツアーに参加する機会を頂き本当にありがとうございました。

2015年アフリカプロジェクトツアー（報告）

タンザニア（アルーシャ、ブル） 日程：7月3日～12日

1. プロジェクトの支援について

1. Singiland セカンダリースクール 【タンザニア ブル地域】

WRJ の支援により完成した 2 教室のオープニングセレモニーが行われ、WRJ の支援に対して謝意が表された。また、建設が遅れた理由、費用が増加した要因、WRJ 支援額の使用状況等につき説明があった。

- ・ WRJ の支援額(送金 2 回分の合計) : TSh46,656 千≒2,799 千円
- ・ 2 教室の建設に使用された額 : TSh45,965 千≒2,758 千円
- ・ 残高 : TSh691 千≒41 千円

(1) 学校の現状

- ・ 8 教室(WRJ による 2 教室を含む。)4 棟は建設済。校長の住居とトイレは建設の最終段階(トイレは男子用 6、女子用 6、一時的に教師との共同利用とする)。また、校長室(小規模)を設置予定。
- ・ 2016 年 1 月の開校を目指しており、生徒 80 人(1 年生 40 人、2 年生 40 人)が入学予定。校長、教師(6 人)は既に決まっている。

(2) 課題

- ・ 開校の基準を満たすためには、以下の施設が必要
 - － 3 つの実験室
 - － 職員室
 - － 水の確保
- ・ 将来、上記の基準を満たす必要はあるが、まず 2016 年 1 月の開校につき認可を得るためには、少なくとも次の施設が必要。
 - － 1 つの実験室 : 現在、実験室は無く、一時的に 1 教室を仮の実験室として使う予定
 - － トイレ 12 : 近々、完成予定
 - － 校長の住居 : 近々、完成予定

これまで、認可に向け検査官と数回面談しており、8 月 1 日に検査官が現地視察に来る予定でしたが、延期となりました。実験室については、当面は仮の実験室で可となる見込みであるが、実験室の建設計画の提出(あるいは、建設の開始)を求められる可能性がある。また、2 年以内には 3 つの実験室を作る必要がある。

(3) WRJ への要望事項

- ・ 2 つの実験室の建設支援 : 費用、1 実験室 TSh55,000 千 x 2 = TSh110,000 千≒6,600 千円

(3 つ目の実験室は、コミュニティーが作る計画)

実験室にはガス栓や水の配管が必要なため、建設費用は一般の教室に比べ高くなる。

尚、上記の費用は概算。コミュニティーが労働を提供することで 2～3 割削減できる可能性がある。



2. Mringa セカンダリースクール 【タンザニア アルーシャ地域】

WRJ の奨学金を受けた 2 名の女子生徒に、加藤代表より認定書を贈呈しました。

(1) 学校の概要

- ・アルーシャ市内から 9km に位置する中学校(高校併設)、Form 1 から Form 6 の生徒、1,366 名(男子 423 人、女子 943 人)が学ぶ。教師 98 人(サポートスタッフ 12 人を含む)。
教室数 23、実験室 3、コンピュータールーム 1、図書室 1。
400 人の女子生徒が寄宿舎(4 棟)に入居中。奨学金を受けた 2 生徒も 7 月から入居予定。

(2) 課題

- ・常に水が不足しており、教師と生徒が 3km 先の水源まで水を汲みに行っている。
- ・3 つの実験室内、1 つは今年完成したが、実験用の器具・薬品の不足のため、使用できない状態。

(3) WRJ への要望事項

- ・隣接する地下水までの採掘および地下水の汲み上げプロジェクトへの支援。
費用：TSh15,000 千≒900 千円（地下水源まで 80m を掘るのに TSh12,000 千、ポンプ汲み上げ装置 TSh2,000 千、セメント等の材料費 TSh1,000 千）。
- ・実験室を使用できるように、実験器具等の購入支援



ムリンガセカンダリースクール



WRT スーレー代表 奨学金を受けた女子生徒、WRJ 加藤代表



ムリンガの生徒たちの歓迎の歌



奨学生にメンバーからのギフトを渡す金子副代表

3. 養蜂プロジェクト、ウォーター（水）プロジェクト 【タンザニア ブル地域】

○養蜂プロジェクト①

(1)概要

- ・年輩者の収入確保のため、2011年に開始したプロジェクト。人数15人のグループで蜂蜜の生産を行っている（2年前にも現場を訪問）。
- ・昨年、初めて蜂蜜を出荷。巣箱は当初の10箱から30箱に増え、今年生産増加を期待しているが、天候にも左右される。

(2)WRJへの要望事項

- ・巣箱購入への支援：巣箱(1つ)のコストはTSh65千～110千（≒4千円～7千円）。
- ・害虫被害等を防ぐため、フェンスを導入したく、フェンス設置への支援。

○養蜂プロジェクト②

(1)概要

- ・数年前に20人でスタート。蜂蜜の販売価格は1瓶(1リットル)TSh12千≒720円。

(2)WRJへの要望事項

- ・巣箱や防具服(TSh110千≒7千円)、用具購入への支援
- ・小屋(用具保管、休憩用)の設置への支援

○ウォータープロジェクト

(1)概要

- ・ブルの中心から4km北東のところにある地区で、ポンプを使い地下水を汲み上げ、タンクに貯蔵することを目的とするプロジェクト。

(2)WRJへの要望事項

- ・プロジェクトへの支援：プロジェクトの総費用、TSh98,237千≒5,894千円

II スーレーさんから聴取した内容、コメント等

1. タンザニアの学校建設について

公立校の建設及び開校後の運営は、コミュニティーが主体となる。政府(地方自治体)が支援する場合もあるが、自治体も財政難であり支援は限られる。

2. ブルを支援している団体について

学校・教育面でブルを継続的に支援している団体(NPO/NGO)は、現在WRJのみである。以前、グローバルパートナーズも支援していたが、現在、同団体の活動は他地域に移っている。

3. Singiland セカンダリースクールのプロジェクトについて

- (1)WRJは、早期に中学校を開校させプロジェクトに一区切りをつけることが重要であることは認識している。
- (2)今後、建設が必要となる実験室については、まずコミュニティーで1実験室を完成すべき、という考えもあるだろうが、コミュニティーだけでは完成できない可能性が高い。このため、WRJが支援しコミュニティーも関わり建設するのが良いと考えている。コミュニティーが関与することで労賃等が軽減できると思われ、その分WRJの負担は抑えられる。どのように建設を進めるか、またWRJに依頼する場合の金額がどの程度になるかについて今後、現地の関係者と話すつもりである。

4. PCに関する要望について

今回、複数の学校からPCの購入支援があったが、スーレーさんのお嬢さんがデンマークからコンテナで中古PCをタンザニアに輸送する活動を行っている。コンテナ1台の費用は4千ドル。1台のコンテナで数百台のPCが運べる。WRJがコンテナ代を出すことにより、学校の要望に応じてはどうか。

5. タンザニアの地方行政区について

行政区を大きい順に示すと、次のようになります。

Region(州) → District(地域) → Division(地区) → Ward(区) → Village(村)

- (1)タンザニアには30の州(Region)がある。
- ・アルーシャはアルーシャ州(Region)の州都である。ブルはマニャラ州(Region)に属する。
- (2)全国には137の地域(District)がある。
- ・アルーシャ州(Region)には5つの地域(District)がある。マニャラ州(Region)にも5つの地域(District)がある。ブルはその一つである。
- (3)ブルDistrictの中には、17のWardがある。
- (4)Wardの中に、Villageがある。

アフリカ奨学金プロジェクト

タンザニアの少女に教育の機会を！

貧困のために、中学に行けない・・・ 学びたくても、学ぶことができない
貧しい農村の少女達に教育の機会を提供し、進学を支援をなさいませんか？

年間6万円の費用で、一人の少女が中学・高校で学ぶことができます。

中学4年間、高校2年間の計6年間の支援（6万円×6年＝36万円）で高校を卒業できます。

一人の少女と地域社会の未来に違いを創れるプロジェクト！！

あなたも奨学金のスポンサーになりませんか？

スポンサーは1口1,000円からご参加いただけます。

60口で一人の少女が1年間学校で学べます。お一人何口でも参加可能です。

WRJ 郵便振替口座

東京 00190-6-566997

加入者名：(特活) ワールドランナーズ・ジャパン

問い合わせ先：特定非営利活動法人ワールドランナーズ・ジャパン

電話 044-949-1068 電子メール：info@wrj.jp Web:http://www.wrj.jp



第17回ワールドランナーズ・ジャパン (WRJ)新春ランニング感謝祭 - 走ることで貢献できてありがとう -

日時：2016年2月7日(日)

場所：川崎多摩川緑地古市場陸上競技場を

スタート、ゴールする往復コース

- ・受付 9:00～各種目スタート30分前まで
- ・ハーフマラソン 10:30 スタート
- ・10Km 10:35 スタート
- ・5km 10:40 スタート
- ・閉会式 13:00～



WRJは、グローバルフェスタ JAPAN2015
の展示ブースに従来通り参加します。

WRJのビジョン「日本に、走ることを通
して貢献するという新しい文化を創作し、根
付かせ、拡大してゆく」を具現化します。

グローバルフェスタ JAPAN2015

【日時】 2015年10月3日(土)、4日(日)

【会場】 お台場・シンボルプロムナード公
園

※昨年の第21回チャリティーランの支援先
「(特活)パレスチナ子どものキャンペー
ン」の報告、他を10月4日(日)13:00
～13:50 サブステージで行います。

WRT 代表ス
ーレーの家族
と共に



定期ランのご案内



WRJでは、ランナー同士の交流の場として、毎月第二日
曜日に定期ランを開催しています。場所は、主に皇居周回ラ
ンニングコース(1周5km)で、竹橋をスタートして反時計回
りに走ります。14時40分に神田駅北口(新宿・上野寄り)の
改札口前に集合します。直接行く人は15時30分に竹橋
駅・和気清麻呂銅像前集合です。15時40分～17時までの
間に1周～3周を走ります。1周目はグループ走、2周目以
降は自由走です。18時から懇親会を開催しています(主に
「白木屋」・神田西口駅前店：03-3251-9288、20時終了予
定)。これから走ろう、花の東京の真ん中を走ってみたいと
思っている方、一度参加してみませんか？

定期ラン連絡用 アドレス teiki-run@wrj.jp

(定期ランマネージャー佐藤 高志、和田、鈴木理事
に届きます。)

※連絡が取れない場合は WRJ 事務局まで

(044-949-1068 加藤方)

◎次 回:9月13日(日) (第256回)

集 合:14時40分集合 ※JR 神田駅北口 改札口前
15時30分 ※竹橋駅・和気清麻呂銅像前

佐藤 透 (さとう とおる) コア・ガラスの世界

—響きあう色彩と文様コア・ガラスの雅—

期間：2015年8月25日【火】～10月18日【日】

会場：北澤美術館 長野県諏訪市湖岸通り 1-13-20

佐藤 透 WRJ 監事の近作約 60 点の展示会です。

作品は光を柔らかく受け止める艶消しされた薄手の
素地に、小動物や草花の文様がリズムカルに配されてい
ます。その繊細な世界に触れてみて下さい。

編集後記 92年アフリカプロジェクトに参加した
時、アフリカの空気に触れて「寒い」と感じたこと、
子ども達のはにかんだような笑み、しぐさ、目の輝き
を思い出します。そして、多くの命に支えられて自分
は生かされていると改めて思いました。感謝。(佐藤
高正)